

経営比較分析表（令和5年度決算）

岐阜県地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院 下呂病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	26	-	ド透訓	救臨へ輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	19,594	-	第1種該当	13:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
168	38	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	206
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
129	23	152

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	平成22年度	-
-	年度	年度

I 地域において担っている役割

飛騨南部地域の中核病院として、「生活の場の医療」を県立病院の立場で提供していきます。

<具体的な内容>

- 1 不採算・特殊部門（救急医療、小児医療、周産期医療、災害医療等）に関わる医療の提供
- 2 急性期医療の提供と地域包括ケア病棟、回復期病棟及び療養病棟を有効的に活用した在宅復帰支援

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 経常収支比率
平均値を下回っており、経常収支比率は前年度と比較し15.6ポイント悪化しています。
- 病床利用率
前年度比較で2.9ポイント好転しましたが、平均値を8.5ポイント下回っています。今後はより一層病院全体として効率的な病床管理、運用を行っていきます。
- 職員給与費対業収比率
平均値を上回っており、引き続き適正な職員配置と業収の増収に努めます。
- 材料費対業収比率
平均値を下回っています。引き続き経費削減に努めます。

2. 老朽化の状況について

- 平成24年度から平成25年度にかけて病院建設に取り組み、平成26年5月に新築移転していることから、当面建物更新の必要はありませんが、医療機器等については計画的な更新、整備が必要です。
- 有形固定資産減価償却率
平成26年度以降平均値を下回っています。
 - 器械備品減価償却率
平均値と比較して1.5ポイント低くなっています。補助金や病院事業債を活用するなどし、計画的な機器の更新・整備を引き続き行っていきます。
 - 1床当たり有形固定資産
平均値を下回っています。

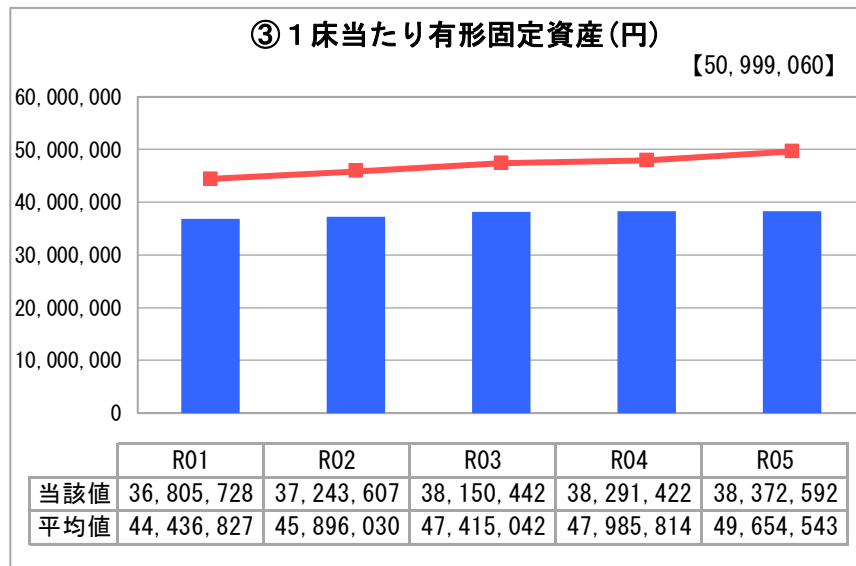
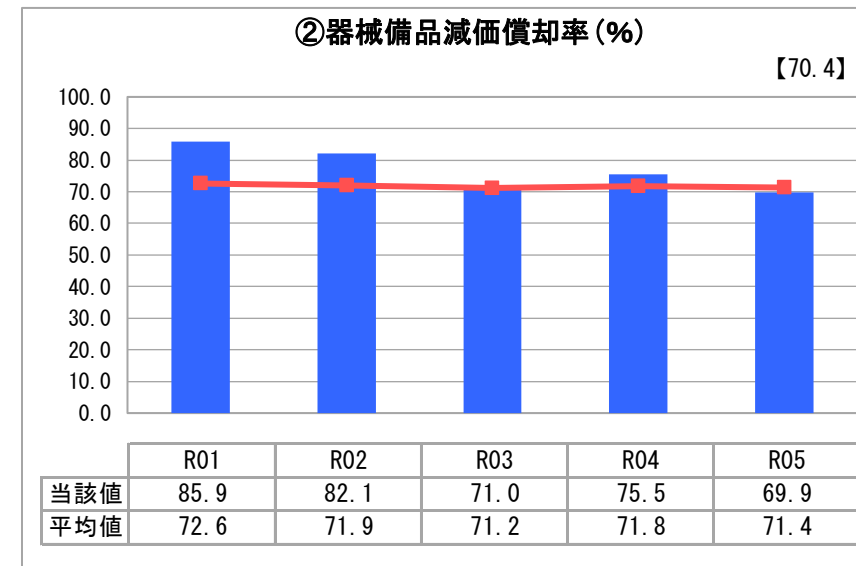
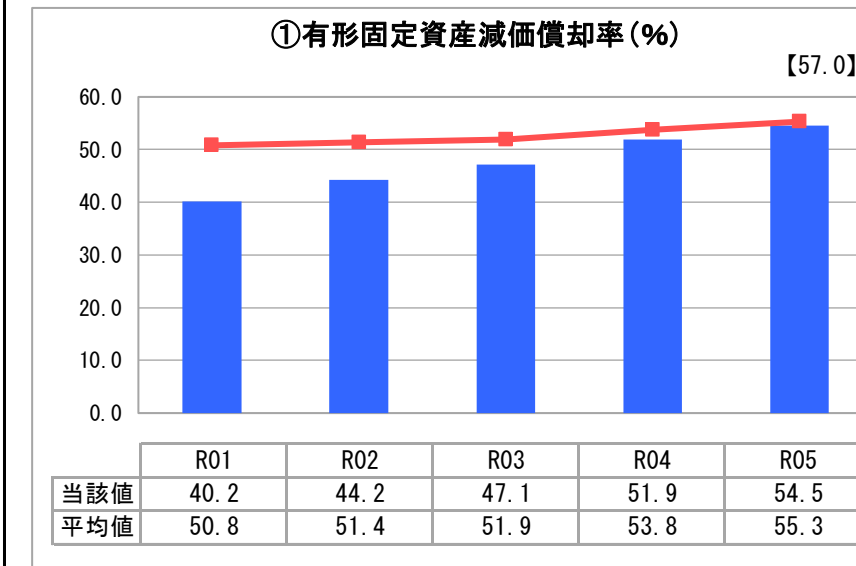
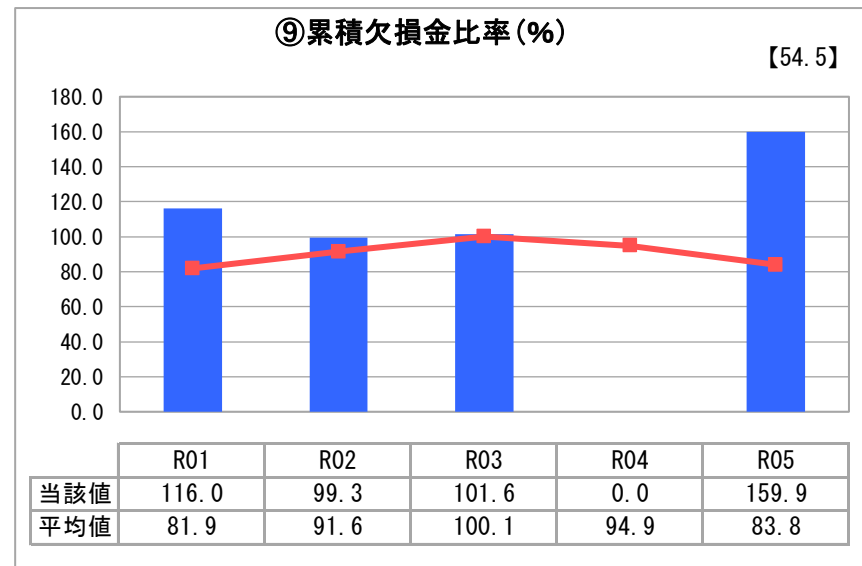
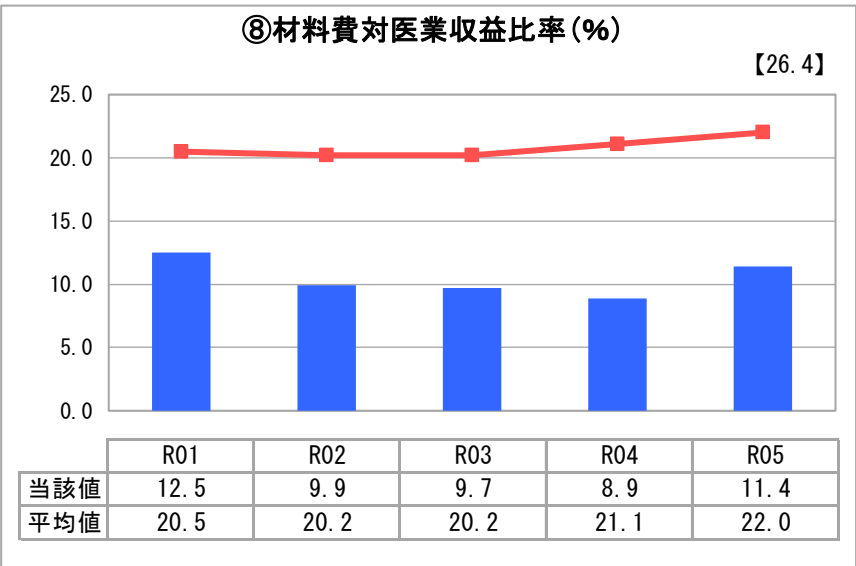
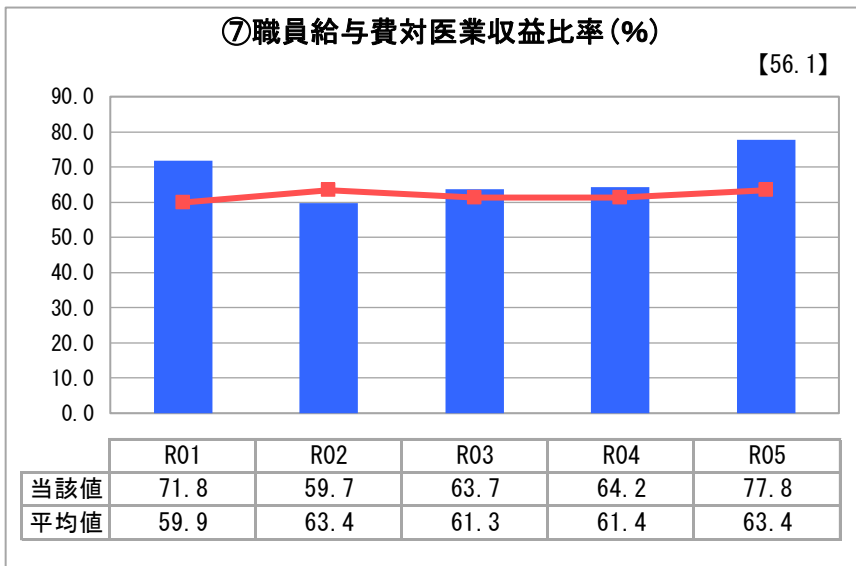
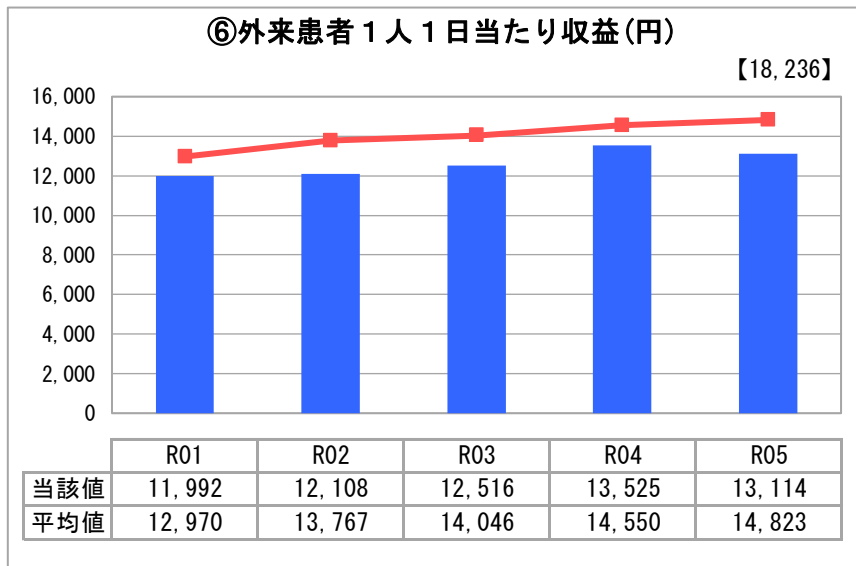
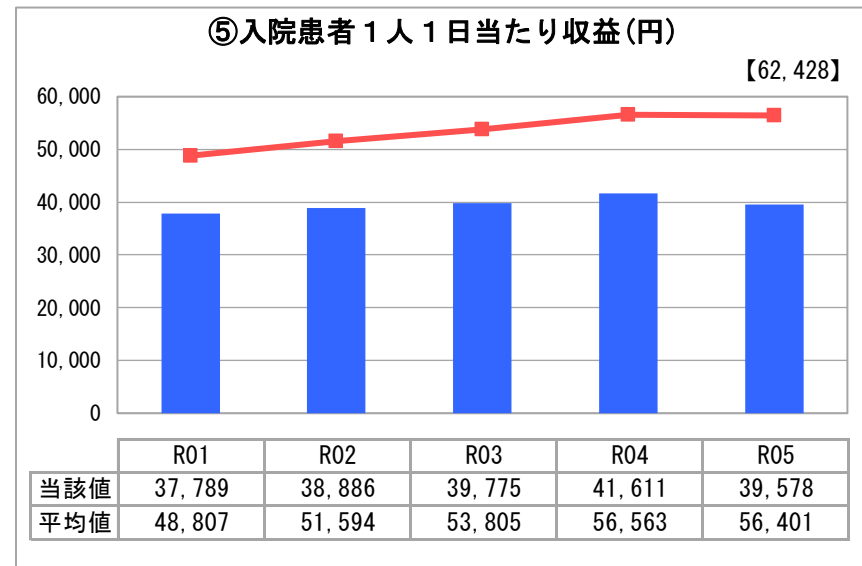
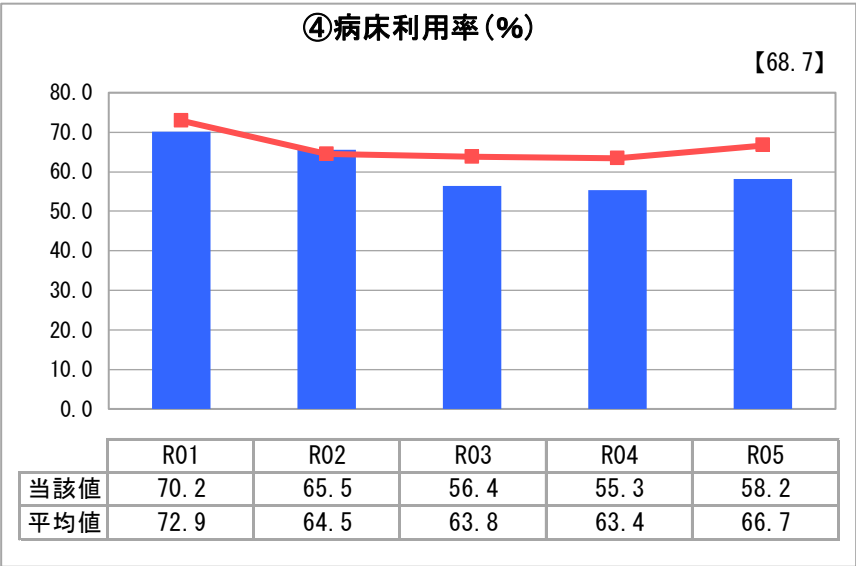
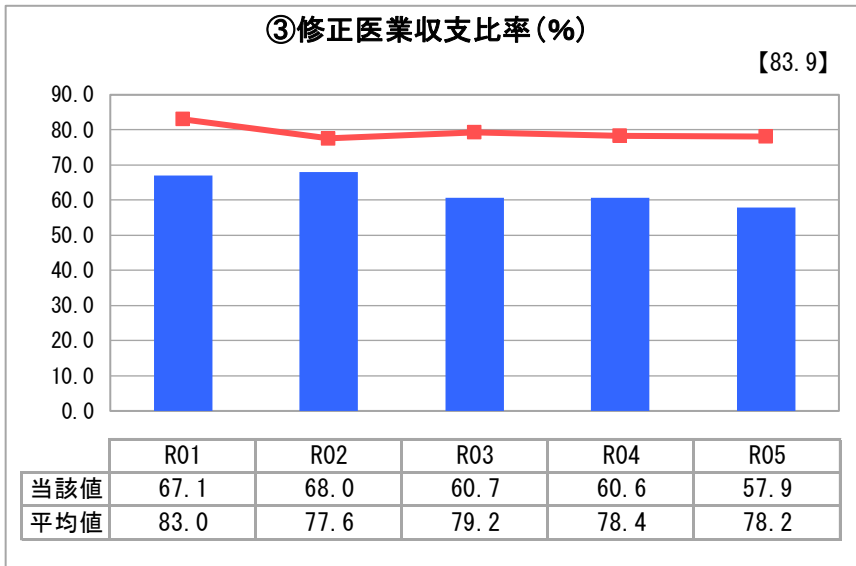
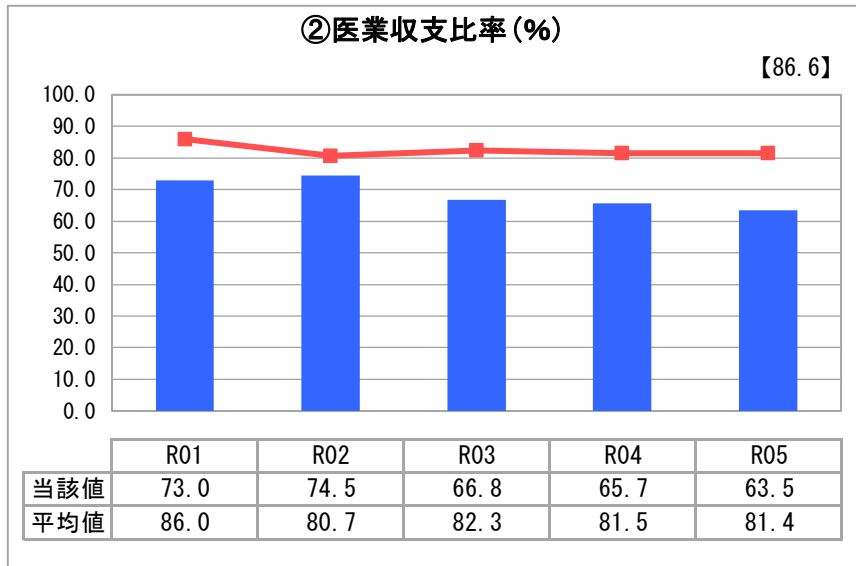
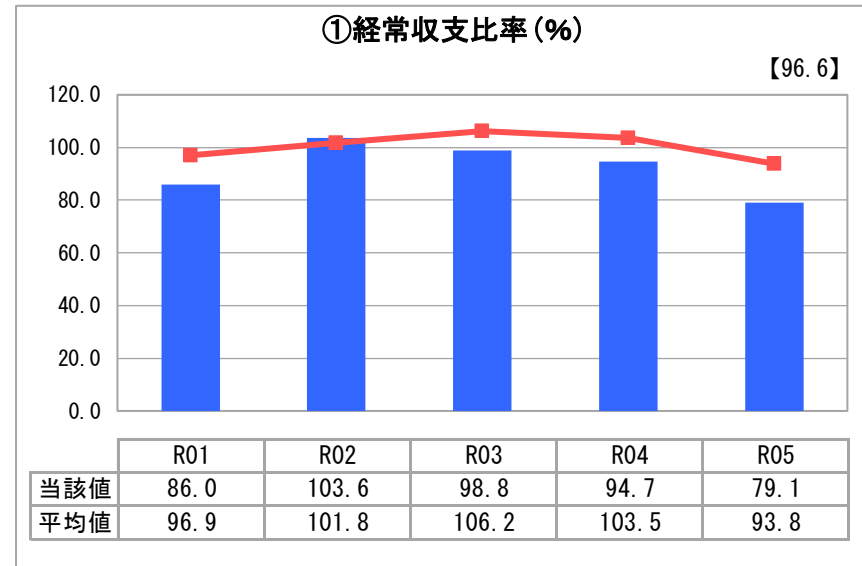
全体総括

平成26年5月に新築移転し、飛騨南部地域の中核病院としての機能を充実するとともに、地元開業医や近隣の医療機関との連携により地域の医療需要に応えています。

経営状況は、患者数の減少や病院建設等に係る減価償却費の負担及び長期借入金の元利償還の発生などの費用により、大変厳しい状況が続いています。

診療報酬改定の内容も見極めつつ、急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期病棟、療養病棟の4つの機能を連携させながら、急性期的治療と在宅復帰支援の充実を図るとともに、業収の増加に向け、引き続き医師をはじめとする人材確保等により一層の経営努力を続けていきます。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。